

# 第1回RWF講習会のご報告

## いま取り組まれている改善活動に一段の磨きをかける技術です

20世紀初頭、工業化の飛躍的な発展に対して、人の作業を改善し、作業能率を正しく評価する技術の研究に多くの学者・研究者が取り組みました。その中心が「作業を動作に分解し、動作の難易度を加味して必要な時間値を定める」技術です。20世紀前半、多くの手法が発表された中で、正確さ、使い易さ、適応範囲の広さから世界中で最も広く使われたのがRWF（Ready Work Factor）でした。

50年前、生産性向上が担当の私は、RWFを学び、活用してその効果に驚かされました。しかし合理化の主流が自動化、無人化と変わる中でRWFは忘れられた技術になってしまったのです。

しかし今も日本のものづくりは人が主役のケースが多い事から私はRWFを復活させる機会を探していました。昨年10月、初めての試みとして、少人数で膝つき合わせて学ぶ「ものづくりセミナー」が始まり私に講師の役割が来た時、この機会にRWFを紹介しようと、講演の中にRWFも

加え、手作りのデモ用セットで作業改善の事例を紹介したところ反響は予想以上で、その場で3社から導入の希望が有りました。しかし以前は頻繁に行われていた講習会も今は何処もやっていない事から、私がやるしかないと決意した次第です。

実施に際して最大の目標は全員がRWFを理解し活用する力を付ける事です。そのため分かり易いテキスト、チェックリスト方式の計算用紙など従来にない工夫を加え、定員は手を取って教えられる規模の10名です。2日間の講義で手法を教え、その後参加者の会社の現場でRWFを使った事例を学ぶ3日間の実習で仕上げをしました。

4月から始まった第1回講習会は7月で終了、参加者8名の全員がRWFの素晴らしさを評価し、今後の活動に活かす事を約束してくれました。RWF復活への第1歩がスタートできた事を大変嬉しく思っています。また皆様からのお問い合わせをお待ちしています。

（吉田記）



機能メッキの(株)コダマでの実習風景



作業時間を半減した手作りモデル